

2011. 10. 22

☆スペイン・バツル *Olé*

アマーリアさんの うたった歌

峰 万里恵 (うた)

高場 将美 (ギター)

《I》

1. アイ・モウラリーア *Ai Mouraria*

作詞：アマデーウ・ド・ヴァル *Amadeu do Vale*

作曲：フレデリコ・ヴァレーリオ *Frederico Valério*

◆1945年、アマーリア・ロドリゲシュのレビュー劇団の初公演はブラジルのリオでした。そのとき初演され、大評判になった曲で、劇団の台本作家と編曲指揮者がつくりました。

モウラリーアは、リスボンのサンジョルジュ城の裏手の地区で、19世紀には、貧しい人々の住む家々の間に、娼婦のいる酒場があり、ファディシュタ（無法者）も集まり、そんななかでファドの歌が生まれました。初期のファドの歌い手でいちばん有名な女性マリーア・セヴェーラ（1820 - 46）も、この町の住人でした。

アイ！ モウラリーア——古いパルマ通りのある町。そこへわたしはある日 わたしの魂をとりこにされて置いて来た。

それは、わたしのそばを とあるファディシュタが通り過ぎたから。——肌の色は黒く、口は小さく、人をからかうような目つき。

アイ！ モウラリーア——わたしを魔法にかけた男の町。彼はわたしに嘘をついていた、でもわたしはあれほどたいせつに思っていた。

愛、それを風は 哀歌のように いっしょに持って行った。でも、今でもなお、そしていつまでも、わたしは その愛をいっしょに連れていく。

アイ！ モウラリーア——軒先にナイチンゲールが止まる町、ピンクのドレスの町、昔ながらの物売りの声の町。

アイ！ モウラリーア——通ってゆく聖体行列の町。セヴェーラの声が ギターラのなかですすり泣いている町。

2. マウムケール *Malmequer*

ポルトガル民謡 *Folclore português*

◆ポルトガル人ならだれでも知っている民謡だそうです。

マウムケールは、英語マリゴールド、日本名キンセンカ（金盞花）や、マーガレット（ひな菊）などの花の呼び名です。バインムケール（あの人にはわたしを愛している）～マウムケール（愛していない）と唱えながら、花びらをむしって恋占いをするところから命名されました。

おお 嘘つきのマウムケール、おまえに嘘をつくことを教えたのは誰？ おまえは あの人がわたしを愛していると言う、わたしから逃げようとしている人なのに！

1輪のちっちゃなマウムケールがある日 あの美しいバラに言いました。人があなたを女王と呼ぶからって そんなに自慢そうにしていないで！

マウムケールはいつも同じ心

でない。マウムケールはずいぶん気持ちが変わる！ 20枚の花びらは死を告げる、13枚は喜びを。



わたしはマウムケールの花びらをむした。サンタレーンの町の美しい庭で！

わたしを愛してる……わたしを愛していない……

わたしをほんとうに愛している人は とても遠くにいます！

3. 心よ、おまえはしくじった *Fallaste corazón*

作詞作曲：クーコ・サンチェス *Cuco Sánchez*

◆アマリアさんは、1950年代からメキシコを訪れ、カンシオン・ランチェーラ（メキシコの郷土色をもった歌謡）も1曲ぐらいうたって頼まれました。ファドと似たところもあるから……とうたったら、このジャンルは彼女にぴったりで、大成功でした。数々のランチェーラをうたったなかで、この曲が、いちばん評判が高かったようです。たしか、日本でも、作者の自作自演よりも前にレコードが出ていました。

そしておまえ——自分は 全世界の王様だと信じていたおまえ。そしておまえ——許すということが一度もできなかつたおまえ。そして冷酷に あわれみもなく すべてをあざ笑っていたおまえは きょう愛情を泣いて求める、お情けの愛情でもいからと。

おまえの誇りはどこへ行ったのか？ 勇気はどこにある？ きょう敗れてしまったから、お

まえは慈悲を乞い歩く。もうわかったろう、愛することと 愛されることは 同じでないことが。きょうおまえは終わってしまった。かわいそうにあわれなやつ。

呪われた心よ。わたしはうれしい、おまえがいま苦しんでいるのが、泣いて 身をちぢめているのが——この大きな愛を前にして。

人生はルーレット。そこではわたしたちみんなが賭ける。そしておまえには これまで 勝つことしか当たらなかった。

でもきょう おまえの幸運は

おまえに背を向けた。おまえはしくじった、心よ、もうふたたび賭けるのはおやめ。

4. 月の花 *Flor de lua*

作詞：アマリア・ロドリゲシュ *Amália Rodrigues*

作曲：カルロシュ・ゴンサウヴシュ *Carlos Gonçalves*

◆アマリアさんのつくった歌詞は、だいたいファドの伝統を受け継いで、心や気持ちを物語っていく形をとっています。この曲は、それとは異なり、単語を並べていく、シュールレアリズム(?)の現代詩スタイルです。70才近くになって録音した曲で、作曲者はずっと彼女を支えてきたポルトガル・ギター奏者です。

ナルドは、小さな白い花がかたまって咲く、香りの良い灌木。サルガーツは黄色い花です。ポルトガル中央から南部にかけての、大きな木のあまり生えていない、起伏のある平原地帯が舞台になっているようです。

孤独——開かれた野原。大地の野原——こんなに荒れはてて。わたしの夏——あこがれ。

わたしの 孤独の きょうだい。

太陽の野原——ひまわり。白いゆりの花——幻影。孤独——わたしの殉難。花が帰ってくる、わたしの花。大地の野原、痛みが帰ってくる。わたしの痛み、孤独。

風が行く 通り過ぎながら、ひとつの哀歌、叫びながら。

ドレミ ミファソ、ドレミ ひまわり。

アザミを掃きよめて ナルドの花を連れておいで、月の花

……ミファソ。

ひまわり、わたしはあなたのもの。花が帰ってくる、わたしの花。大地の野原、痛みが帰ってくる。わたしの痛み、孤独。

海が叫ぶ、もう風の中で。あなたのまなざし、わたしの苦難。月が泣く、金色の花、夜明け前の 象牙。

月がうたう、半分はだかで、愛らしい花、サルガーツの茂み、バラの茂み、わたしのバラ。

泉が泣く、山が祈る。白いつばさ、花がうたう。花が泣く、バラでできた野原。

5. 川辺の民 *Povo que lavas no rio*

詩：ペドロ・オーメン・ド・メロ *Pedro Homem de Mello*

曲：ジョアキーン・カンボシュ *Joaquim Campos "Fado Vitória"*

◆詩人オーメン・ド・メロは、ポルトガル北部ヴィアーナ出身で、フォルクローレの芸能団をひきいていたこともあります。彼のこの詩に感激したアマーリアさんが、編集して歌詞に直し、1920年代からファドの歌い手だったジョアキーンがつくったメロディ《ファド・ヴィトーリア》に乗せました。

川で洗たくするひとびとよ、
手斧で わたしの棺にする木を
削りだすひとびとよ、おまえの
味方になる人は出てくるかもし
れない、おまえの聖なる土地を
買う人は出てくるかもしれない。
でも おまえの命は ナオン
(否)。

わたしは丸いテーブルを お
まえと分け合った、手から手へ
と渡されてきたキスを隠してい
る壺を飲んだ。おまえがわたし
にくれたのは ワインだった、
野生のくだものだった。でも
おまえの命は ナオン (否)。

ウルズ (ヒース) と雑草のこ
おい——わたしたちは草たちと
ベッドをともにして眠った、草
たちと同じ身分になった。ひと
びとよ、ひとびとよ、わたしは
おまえのものになっている。お
まえは、わたしに 祭壇の香の
高さをくれた。でも おまえの
命は ナオン (否)。

川で洗たくするひとびとよ、
手斧で わたしの棺にする木を
削りだすひとびとよ、おまえの
味方になる人は、おまえの聖な
る土地を買う人は出てくるかも
しれない。でも おまえの命は
ナオン (否)。

6. 百年祭のマルシャ “リスボンが生まれた”

Marcha do Centenário (Lisboa nasceu)

作詞：ノルベールト・アラウージョ *Norberto Araújo*

作曲：ラウル・フェラオン *Raul Ferrão*

◆マルシャは一般に行進曲のことですが、リスボンでは6月の聖人の祭りの日に、パレードするダンス・グループをこう呼びます。これを年中行事として盛大なイベントにした、リスボン伝統を熱愛するジャーナリストが、この歌詞を1947年のパレードのために書きました。作曲者は、レビュー音楽の巨匠のひとり、マルシャでは第一人者といわれました。

街ちゆうが浮かんでいる、わ
たしの歌の海の上に。通りを過
ぎてゆくのは 月の裁ちくず。
わたしの風船に落ちてくる。

リスボンを遊ばせてあげな
さい。わたしを凍りつかせる不幸
なんか無い。笑いながら うた
いながら 空中に頭をとばして
きょうわたしは頭をなくす。

リスボンが生まれた、空のす
ぐそばで、信仰のゆりかごにす
っぽり入って。河でからだを洗
った。アイアイアイ 生まれた
のは女の子だ！ カテドラルで
洗礼を受けた。

もうおんなになった。そして
きょう彼女がのぞむのは、即興

の詩をうたうこと 足を動かす
こと。気取り屋で ずるがしこ
い。アイアイアイ 女の子。で
もなんて彼女はきれいなこと。

みんなが言う、わたしはお婆
ちゃんだと、8世紀前に生まれ
たと。それにはわたしは同意で
きない。わたしのところを通り
過ぎはしなかった、死も人生も。

とあるお小姓がわたしに フ
アドを1曲つくってくれた。
とあるアラブの代官が わたし
の運命を読んでくれた。

わたしは恋人を持たない。
痛みも心配もない。そしていつ
までも女の子にいる。

7. 黒い舟 (暗いはしけ) *Barco negro*

作詞：ダヴィッド・モウラオン=フェレイラ *David Mourão-Ferreira*

作曲：カコ・ヴェーリョ/ピラチーニ *Caco Velho / Piratini*

◆リスボンを舞台にした1955年のフランス映画『過去を持つ愛情』で、俳優として出演もしたアマーリアさんがうたった曲です。原曲は『黒い母 *Mãe preta*』というブラジルの曲で、主人の白い子どもを育てる黒人奴隷の老女をうたっています。映画のために、ポルトガル現代文学者・詩人でアマーリアさんの崇拝者だったモウラオン=フェレイラが、まったく新しい歌詞を書き下ろしました。

朝、どんなに不安だったこと
か、あなたにわたしが、みにく
く見えたらと！ わたしはふる
えながら目を覚ました、砂の上
に身を横たえて……。

でも、すぐにあなたの目は、
そうではないと言った。そして
太陽が射しこんだ、わたしの心
のなかに。

わたしは見た、その後、岩ひとつ、十字架ひとつ。そしてあなたの黒い舟は、光のなかで踊っていた……

わたしは見た、振られているあなたの腕、もう綱を切り離された帆のあいだで……

浜の老女たちは言う、あなたはもう帰ってこない。彼女たちは頭がおかしいんだ！ 頭がおかしいんだ！

わたしは知っている、こいび

とよ、あなたはまだ出航もしなかったことを。だって、すべてが、わたしのまわりで、あなたはいつもわたしといっしょにいると 言っている。

窓ガラスに砂をぶつける風のなかに、うたっている水のなかに、消えかかった火のなかに、寝台のぬくもりのなかに、からっぽのベンチの上に、わたしの胸のなかに、あなたはいつも、わたしといっしょにいる。

《II》

1. あなたの思い出とわたし *Tu recuerdo y yo*

作詞作曲：ホセ・アルフレード・ヒメーネス *José Alfredo Jiménez*

◆ホセ・アルフレード・ヒメーネスは、自分の波乱に飛んだ愛の人生をそのまま歌にすることで、1950年代の初めから、メキシコ人の魂を代表する歌謡ランチェーラのジャンルに、豊かな深い人間性をもたらしました。『彼女』という曲が、まず大評判になり、つづいて『あの去って行った女』そして『あなたの思い出とわたし』で3部作(?)になりました。どれも同じ女性にうたっています。愛し合っていたのに、彼女の両親の反対で結婚できなかったのです。

わたしは酒場の とある片隅にいる、わたしが頼んだ ある歌を聞きながら。

たった今 わたしのテキーラが来たところで、もうわたしの思いは あなたの方角に向かって行く。

わたしは知っている、あなたの思い出は わたしの不幸だと。そして わたしはただここにや

って来た、思い出すために。

わたしたちに起こることはどれも なんと ながいことだろう！ 人がやってくれたことに報いない女がいるときには。

知らないものは誰だ？ 良くない愛がわたしたちに置いていく この人生でこんなによく知られた裏切りを 知らないものがあるだろうか！

酒場へやって来ない者がいるだろうか！ その人のテキーラが欲しくてたまらなくて、その人の歌が欲しくてたまらなくて。

わたしにはもう 帰り道のためのテキーラが出されている。

この今となつては もうわたしは知らない、わたしに信じる心があるのかどうか。

この今となつては たただわたしは彼らに頼む——もう一度弾いてくれと。『あの去っていった女』を。

2. 3つのことば *Tres palabras*

作詞作曲：オスバルド・ファレーズ *Oswaldo Farrés*

◆ラテンのロマンティックな愛のうたを代表する《ボレーロ》のスタイルの曲です。作者はキューバ人で、生まれて以来、歌もうたったことはなく音楽とは無関係でした。デザイン学校にかよい、やがて広告関係の仕事に入り、あるとき偶然に人に呼びかけた文句とメロディ(?)が受けたので、作詞作曲家になりました。1940年代から大活躍。かの有名な『キサス・キサス・キサス』も彼のつくった曲です。

この告白をお聞きなさい、わたしの秘密の告白を。それは、荒れ果てている ひとつの心から生まれてくる。

3つのことばで わたしはあなたにわたしのことを全部言おう。心のこと、かけがえのないこと。

あなたの両手をください。来

て、わたしの両手をとって。そうしたらあなたに打ち明けましょう、わたしの思いこがれていることを。

3つのことば。わたしの苦悩はただそれだけ。そしてそのことばとは——

Cómo me gustas!

どれほど あなたが 好きなことか！

3. ラ・タランテッラ *La tarantella*

作詞：アキッレ・デ・ラウツィエーレス *Achille De Lauzieres*

作曲：フランチェスコ・フロリーモ *Francesco Florimo*

◆イタリア南部の舞曲タランテッラです。この曲はナポリのスタイルで、1845年に楽譜が出版されたとのこと。作曲者はクラシック音楽の作曲・教授と図書館での仕事で尊敬されていました。

砂浜へ見に行こう、満月が輝いているあいだに。いまは夜なのにまるで朝のよう……。マルジェッリーナ海岸の漁師たちはここで準備している、キラキラ光る タランテッラを……

ひとりの男とひとりの女が 真ん中へやってくる。人々は輪になって囲む。でもわるだくみをもってその漁師は 踊るあいだに愛を成就させようとする……。ただ陽気な騒ぎだけではないんですよ、タランテッラは……

彼は彼女を誘い 彼女は腹を立てる。ふくれっつらをする やきもち

をやく。それからケンカ 戦争になる。それからふたりはひざまずき、それから仲直り……。ぜんぶはつきりわかって すっきりよく見えて美しい、タランテッラは……

ああ わたしは船乗りになりたい。港港での楽しみ、でもとっても大変なこと。だけど キアーヤ地区の真ん中では 毎晩こんなよろこびが手に入る……。さて おわかれですか 素晴らしくありませんか？ タランテッラは……

*繰り返し歌詞の「トゥッペテ……」は、物が落ちて転がっていく音だそうです。

4. みどりの目 *Ojos verdes*

作詞：ラファエル・デ・レオン *Rafael de León*

作曲：マヌエル・キローガ *Manuel Quiroga*

◆セビージャ出身の詩人と音楽家の名コンビによる、1941年の、コブラ（スペイン、アンダルシア地方の色彩をもった歌謡）の大ヒット曲でした。歌詞に不穏当な部分があるという理由で、放送禁止になったようですが……。女性歌手コンチータ・ピケールがうたいました。作者たちは、すぐに男性用に直した歌詞もつくり、こちらもヒットしました。

遊び女の家の戸口に立って、わたしは燃え上がる5月の夜を眺めていた。男たちは通り過ぎ、わたしはほほえみ……。やがて、あなたがわたしの前で馬を止めた。

「セラーナ（ジプシー女）、タバコの火をくれないか」

「火はわたしの口からお取りなさい」

あなたは馬から下り、わたしは火を上げた。あなたの両目はわたしにとって、ふたつのみどり色の、5月の明星だった。

……わたしたちは部屋から、朝が目覚めるのを見た。物見の塔が夜明けの鐘を打ち、あなたはわたしの両腕から出て行った、わたしの口のなかに ミントとシナモンの香りを残して。

その後、2度とわたしは、あんなに美しい5月の夜を見ることはなかった。

みどりの眼、バジリコのようにみどり、みどりの小麦のように、レモンのようにみどり。

ナイフの輝きをもって、わたしの心臓に突き刺さったみどりの両目。わたしには、もう太陽も明星も月もない。みどりの眼がわたしの命。

5. あの通り *Aquela rua*

作詞：ジョアオン・リニャールシュ・バルボザ *João Linhares Barbosa*

作曲：ジャイム・サントシュ *Jaime Santos*

◆作詞者は、最高の「ファドの詩人」といわれた、民衆文学の巨匠です。街角の即興歌手としてスタートし、1920年代から、ファド専門誌の編集・発行、プロのファド・アーティストの活動する専門のホール（後の「ファドの家」につながる）の設立運動などで、ファドに大きな貢献をしました。アマリアさんとは長いつきあいで、彼女のコンサート会場で、彼の歌詞を集めた自費出版の本を、彼自身が売ったりしていました。作曲者は、ポルトガル・ギターの名手で、映画『過去を持つ愛情』のために演奏、出演もしています。

わたしに、その通りの話をしないで。あの通りは、わたしにとっては、いちばんきれいな通りだった、いまだに。

そう、あなたは黙っていてくれたほうがいい。わたしに、今日の時間のことを話すなんて！ 過ぎてしまったことでも、わたしに話さないで。

あの幻影の時代、わたしは、素朴な白百合のように小さかった。月の光のように純粹、わたしはきれいな女の子だった。その通りの始まりから終わりまで。

小さな四角の模様の、青い上っ張りを着て、学校へかよった。リボンと紐で飾って。

きょうわたしは、ほかの道をたどっている。わたしは、あなたの両腕の鳥かごに捕らえられてしまった。

わたしには楽しい歌たちがあった。はやりだったそんな歌だけしか、今のわたしはうたえない——「見てごらん 悲しいやめさん。回って歩いている 泣きながら歩いている」

わたしは、あの噴水の妹だった。あの正面にあった噴水。わたしは、ベラベラおしゃべりを覚えた、噴水といっしょに。

でも、あとですべては変わった。なぜなら、ある日 あなたが通り過ぎたから。あなたが通り、泉はかかれてしまった。

わたしの 小さな土の水つぼ
—変な おもしろい形のつぼ

—そうなることに決まっていたんでしょ、こわれてしまった。

あなたはわたしを、あなたのものと呼びながら通った。そのときから、もう、わたしは踏んでいない、あの通りの石たちを。

わたしにあの通りの話をしないで……

6. それは神様だった *Foi Deus*

作詞作曲：アルベルト・ジャネシュ *Alberto Janes*

◆映画『過去を持つ愛情』のタイトルバックに使われた曲です。

わたしは知らない、だれも知らない——なぜわたしが 痛みと涙にくるしめられたこんな調子でファドをうたっているのか。

そしてこの苦悩の中で、悩みのすべてのなかで、わたしは感じる——ここの中にある魂が わたしのうたっている詩のなかで 安らかなって行くのを。

それは神様だった。——目に光を与え、バラたちを香らせ、太陽に黄金を 月に銀を与えたのは。

それは神様だった。——わたしの胸に 悩みのロザリオを置いたのは。その糸をわたしは解いていき、うたいながら泣いている。

そして神様は空に星たちを置いた。終わりのない空間をつくった。つばめたちに喪服を着せた アイ！

そしてわたしに この声をくれた。

わたしはうたっているのだとしても 何をうたっているのかわからない——運命とサウダードと愛情のミックス そして たぶん愛。

でもわたしは知っている わたしは うたっているとき 人が悲しむときと 同じことを感じているのだと、そして顔に涙を浮かべると わたしたちは気分がよくなる。

それは神様だった。——風に声を与え、大空に光を、海の波に青さを与えた。

そしてナイチンゲールを詩人にした。野にローズマリーを置いた。春に花たちを与えた アイ！ そしてわたしに この声をくれた。

7. マリーア・ベンタおばさんのファディーニョ

Fadinho da ti' Maria Benta

ポルトガル民謡 *Folclore português*

◆ファディーニョ（小さなファド）は、地方の民俗舞曲のスタイル名です。

わたしのほうを見ないで 見ないで。わたしはあなたの愛ではありません。わたしはイチジクのようにはありません、花も咲かせず実を産むなんて。

おお 青く澄んだふたつの目——わたしの人生とは正反対。あなたは何が楽しいんですか、愛するひと、わたしがくるしむのを見て？

わたしは胸の中に持っている、心臓のすぐそばに ふたつのことば——それが言う 「愛する

ことはシン、あなたを手放すのはナオン」

あなたの髪の毛の波は 金色でいい香り。それは網、そこにからまりつくのは 情熱にくるしむ魂たち。

おお マリーア・ベンタおばさん。あなたの男の子はよくなっています。病気はそれほどまでに重くない。これ以上悪くはありません。

どうもありがとうございました。
またお目にかかるのを楽しみにしております。

選曲・構成：峰 万里恵 プログラム作成：高場 将美

ワールド・ミュージックの館 ~峰 万里恵と仲間たち~

第3回 フィエスタ！

峰 万里恵(うた) 齋藤 徹(コントラバス)
喜多 直毅(ヴァイオリン) 高場 将美(ギター、話し)

12月24日 (土) 19時開演 (18:30開場)

cafe&space **ポレポレ坐** (JR、都営大江戸線「東中野」駅)

予約 **3000円** (1ドリンク付き。当日は 3500円)

●ご予約はポレポレタイムズ社まで

Tel: 03-3227-1405 / Email: event@polepoletimes.jp